

令 和 7 年

第4回（12月）波佐見町議会定例会

町政に対する一般質問

波佐見町議会

通告順位	1	通 告 者	6番 岡 村 達 馬 議員
質問事項及び要旨	<p>1 波佐見町の学校問題・課題について</p> <p>今、SNSで「学校・教育・家庭・こども」と検索したり、新聞等の記事を見ると、学校に関わる多くの問題や課題が見受けられる。その多くは解決策や対応策も同時に確認することもできるが、いじめに関しては、こども本人がひとりで抱え込み、相談もできずにいる事例も多く紹介されている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)本町の小学校3校の学年別児童数と中学校の学年別生徒数、また、教諭の人数はいくらか。 (2)次年度中を目指し、授業時間5分短縮の方針が出されている。その取り組みは始まっているのか。 (3)昨年の全国小中学校の不登校数は35万人を超え、12年連続で増加している。新たな対応が必要ではないか。 (4)全国的に小中学校でのいじめも4年連続で増加している。町内の中学校の状況はどうか。 <p>2 技術職員の確保と学習環境の整備について</p> <p>自治体職員数は平成8年度と比較すると令和3年度で 14.4%少なくなっている。特に土木技術部門では 13.2%減少している。また、規模の小さい市町村では土木技師が一人もいない自治体もある。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)毎年のように募集は行われているが、応募が少ない背景をどう捉えているのか。 (2)技術職員の不足により工事設計等の業務をすべて委託する傾向にあるが、その間の協議や成果品の見極ができているのか。 (3)現場の品質確保あるいは良好な管理の根拠を示すため、技術職員の国家資格等の取得が急がれるが、町としてどのようにキャリアアップを図っていくのか。 		

質問の相手	町 長・教育長

通告順位	2	通告者	10番 田添有喜 議員
質問事項	<p>1 安心・安全なまちづくりについて</p> <p>今年も異常気象が続き、農作物では高温障害も随所で見られた。しかし、台風や大雨等による大きな災害が発生しなかったことは、町民にとって幸であった。</p> <p>自然災害は予期できず、いつ発生するかわからないことから住民の不安を招いている。そのため、事故や災害への未然対策が必要であることは言うまでもない。</p> <p>そこで、町道(県道)管理と河川管理(普通河川と2級河川)について、次のことを問う。</p> <p>(1)町道及び県道の維持管理上の課題は何か。</p> <p>(2)町が管理する普通河川の整備には、どのような課題があるのか。</p> <p>(3)県が管理する2級河川の整備について、県とどのような協議を行い、また今後の計画についてどのような情報を得ているのか。</p> <p>(4)普通河川及び2級河川の橋架の点検及び整備計画はどのようにになっているか。</p>		
項目及び要旨	<p>2 教育行政について</p> <p>文部科学省は、令和7年9月25日に「公立学校の教職員の業務量の適切な管理その他教育職員の服務を監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」を発表した。また、この指針の適用は令和8年4月1日になっている。</p> <p>このことを受け、教育委員会の取組みについて、次のことを問う。</p> <p>(1)服務監督教育委員会が講ずべき措置等について、現在の取組状況はどなうか。</p> <p>(2)今回の指針を受け、令和8年度の予算計上にはどのようなものが考えられるのか。</p> <p>(3)服務監督教育委員会が講ずべき業務量管理・健康確保措置についての対応は、どのように取組んでいくのか。</p>		

質問の相手	町 長・教育長

通告順位	3	通告者	4番 横山聖代議員
小学校の編成について 町内の児童数は年々減少しており、特に東小学校は1学年1クラスで児童数が20名を下回る学年もある。また、本町の出生数も令和5年度以降は100人を切り、将来的な学校規模の縮小が避けられない状況と考えられる。 子どもたちにとって、より良い学習環境を確保するためには、学校の適正規模や適正配置の点から、今後的小学校再編についての検討を開始する必要があると考える。 そこで、次のことを問う。 (1) 東・中央・南の3小学校の児童数推移及び今後の見通しについて、どのように分析しているか。 (2) 現在の学校規模による教育環境に関する見解はどうか。 (3) 小学校再編に向けた検討の必要性について、どう考えているか。 (4) 地域・保護者・学校関係者が参加する検討委員会を設置する考えはないか。			

質問の相手	町 長・教育長

通告順位	4	通 告 者	5番 岡 村 真由美 議 員
質問事項及び要旨	<p>1 県への要望書提出について 町民からは、県の管理である川棚川や県道についても要望が寄せられる。 そこで、次のことを問う。 (1)町民からの要望は、どのようにして県に伝えているか。 (2)新たに河川の浚渫・伐採の予算がついたと聞くが、具体的にどの区間になるか。 (3)過去5年間に浚渫・伐採の工事が行われた区間はどこか。 (4)雑木雑草の繁茂や土砂の堆積を放置し続けた場合、町民の生活への影響はどのようなことが考えられるか。</p> <p>2 ふるさと納税について ふるさと納税制度が始まって18年目。今では、本町にとってなくてはならない制度となっている。 そこで、次のことを問う。 (1)ふるさと納税の歳入全体に占める割合は、どのように推移しているか。 (2)他の市町での制度除外措置が報道された。本町でも注意すべき点があるか。 (3)企業版ふるさと納税の実績についてはどのような状況か。 (4)ふるさと納税の今後の展望をどのように捉え、どのように備えているか。</p>		
質問事項及び要旨			
質問事項及び要旨			
質問事項及び要旨			

質問の相手	町 長

通告順位	5	通 告 者	8番 城 後 光 議 員
持続可能な町運営について 積極的な財政政策や金融緩和の継続を進める現政権の発足後、金利の上昇や円安は止まらない傾向が続いている。生活物資の価格高騰、市中金利の上昇傾向は今後も続いていると思われる。 このような環境の中で、波佐見町行政改革大綱にも記載されているとおり、自主財源を増やし歳出を抑える財政改革が、持続可能な町運営には必要不可欠となってくる。 そこで、次のことを問う。 (1)直近5年間の決算における、扶助費及び公債費の総額、並びに公債の金利状況はどうなっているか。 (2)波佐見町第8次行政改革大綱の要点と、公共施設統廃合計画の具体的な策定期は。 (3)職員のワークライフバランスを推進するためにも、町主催の行事を減らす考えはないか。 (4)自治会への支援を含め、まちづくり団体を強化するために、今後どのように取り組む考えか。 (5)町内企業支援のために、ふるさとづくり応援基金を活用したファンド等を設ける考えはないか。			

質問の相手

町 長・教育長

通告順位	6	通 告 者	2番 脇 坂 正 孝 議 員
質問	<p>1 放課後児童クラブについて</p> <p>本町では、各小学校区で3施設が運営されている。令和7年度は「よりそっと」でも緊急的に受け入れているが、全体的に定員に余裕がないように思われる。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1)3施設の定員と受け入れ人数の今後の見通しはどうか。</p> <p>(2)令和8年度の利用希望案内(町のHP)では、3施設とも余裕がないように見えるが、定員超過の場合はどうのに対応するのか。</p> <p>(3)南小学校区の放課後児童クラブは、施設の利便性や立地条件などから、施設の早急な移転が必要であり、公設民営化すべきと考えるがどうか。</p>		
事項	<p>2 町長の所信表明について</p> <p>前川町長が就任されてから3年が経過した。令和4年9月議会で町政に臨む所信を表明し、「継承、変革、進化」を基本方針とした重点施策を述べ、学校給食費の完全無償化や「こども家庭センター」の設置などの各種事業に取り組んでこられた。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1)この3年間で各重点項目はどの程度達成できたと考えているか。</p> <p>(2)今後の取組みをどのように考えているか。</p>		
及び			
要旨			

質問の相手	町 長・教育長

通告順位	7	通 告 者	11番 北 村 清 美 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1 地場産業「波佐見焼」における官民一体の共創対策について</p> <p>佐賀県有田町とは、窯業界・役場(商工観光課)・議会において協議会等を相次いで開催している。両町が一体となり、この未曾有の共通危機を乗り越えるために、お互い協力していくことを確認している。そして10月に本町は県に対して要望書を提出し陳情したところである。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1)現在までの経緯説明を。</p> <p>(2)県と本町はサプライチェーン(供給から販売までのプロセス)、及びデマンドチェーン(顧客の需要)の対策について、どのように考えているか。</p> <p>(3)喫緊の課題として、本町は令和8年度の予算を含め、有効な支援策などをどのように考えているか。</p> <p>2 まちづくりについて</p> <p>人口減少は本町に限らず国全体としての大きな課題である。賢く縮むこと(スマートショーリング)もこれから大きな流れになると思われる。しかし、我々は人口増加や出生数増加のための政策をギブアップすべきでなく、あきらめずに続けることが重要である。また、現状維持の「対策」ばかりではなく、その先の「夢」を考えることが大事である。</p> <p>そこで次ことを問う</p> <p>(1)本町は福岡・長崎のベットタウンとして、推進策を考えるべきではないか。</p> <p>(2)コミュニケーションを向上させるために、「同窓会開催支援補助金」や「没イチ会」を推進・創設してはどうか。</p> <p>(3)本町は認知症対策「チームオレンジ」や「支え合い」の共助・互助活動を大いに推進すべきではないか。</p> <p>(4)老々介護世帯の生活負担を軽減するサービスは考えられないか。</p> <p>(5)難聴は、高齢者のひきこもりや孤立、更には認知症の発症に繋がるなど、大きな要因となっている。「加齢性難聴者の補聴器購入助成」を考えられないか。</p>		

質問の相手	町 長

通告順位	8	通 告 者	7番 三 石 孝 議 員
<p>1 波佐見町公共施設等総合管理計画について 令和4年に改定された波佐見町公共施設等総合管理計画では、老朽化に伴う公共施設の長寿命化対策に力点が置かれているものとなっている。 そこで、次のことを問う。</p> <p>(1)建物系公共施設について ①計画的な実施状況はどうか。 ②問題や課題はどうか。 ③体制面(財政・人事等)の状況はどうか。</p> <p>(2)インフラ施設について ①水道・町道における長寿命化の現状はどうか。 ②「波佐見町道路ストック総点検」はどうか。</p> <p>2 事務事業評価について 本町における事務事業評価の必要性と重要性は、9月の議会で明らかになった。 その後の状況を確認するために、次のことを問う。</p> <p>(1)事務事業評価の体制の確立はどうか。 (2)実施の時期と実施状況はどうか。</p>			

質問の相手	町 長・教育長